

# 令和5年度 鳴水小学校経営案

北九州市学校教育の目標【目指す子どもの姿】

◎自立し思いやりの心をもつ子ども／◎新たな価値創造に挑戦する子ども/◎本市に誇りをもつ子ども（シビックプライド）

学校教育目標 <知育・徳育・体育のバランス>

かしこく 心豊かな たくましい 子どもの育成

目指す児童像【キャッチフレーズ】 めざせ! な る み す っ 子 な ん だ ん だ も よ く 考 え、レールを守り、 ん な 笑 顔 で 元 気 よ く、す ー と 仲 よ し 鳴水っ子!!

○かしこい子ども  
自ら学び、よく考え、行動する子ども  
(まなびの花)

○思いやりのある子ども  
自分や相手を大切にする子ども  
(おもいやりの花)

○たくましい子ども  
健康で意思の強い子ども  
(げんきの花)

3つの花を 大きく さかせましょう

目指す学校像 ○子どもの笑顔が輝く学校 ～「期待の登校」「満足の下校」～ ○主体的に関わり合い、励まし合って伸びようとする学校  
○安心・安全で、美しく、清潔な学校 ○地域の教育力を生かし、地域に根ざした開かれた学校

目指す教職員像 ○一人一人を大切にし、子どもの命を守りきる教職員 ○地域・保護者から信頼される教職員  
○職責を自覚し、資質・指導力の向上に取り組む教職員 ○お互いの職務を理解・尊重し、1.1 倍の気遣いができる教職員

## 学校運営の重点

～「絶対に学校や学級を荒れさせない」を教職員の合い言葉として～

～ポストコロナの新しい学校教育に挑戦することと特別に支援や配慮を要する児童への対応を一丁目一番地として～

○まなびの花「かしこく（知）」

学ぶ力の基盤づくりの推進

- ・学習規律の定着
- ・家庭学習との連動や自主学習の取組の強化
- ・中学校区での目ざす子ども像等の共有

基礎学力の定着

- ・専科や持ち合い授業による専門的な授業
- ・朝自習の時間等に AI ドリルの活用

主体的に学び続ける子どもの育成

- ・「わかる授業」づくり 5つのポイントの質の向上
- ・ICT を効果的に活用した授業づくりの研究
- ・主体的・対話的で深い学びの実現  
「個別最適な学び」と「協働的な学び」による授業改善
- ・「形成的評価」を生かした指導を一層充実させ、指導と評価の一体化を図る
- ・OJT による指導力等の向上
- ・「身近に本、気軽に読書」を合い言葉に、校

内の読書活動を推進

- ・図書室の学習への積極的な活用
- ・読み聞かせや自由読書等の読書活動の推進  
(ぴー・か・ぶーとの連携)

○おもいやりの花「おもいやり（徳）」

規範意識の向上

- ・生徒指導の充実（納得させて下校。子どもからの情報より早く保護者に連絡を）

- ・子どもの手本となる言語環境

特別活動の工夫と充実

- ・カリキュラム・マネジメントを生かした学校行事の実施

- ・自己肯定感を高める場の工夫と感謝の心を育む取組（「鳴水あったか放送」の継続等）

一人一人を大切にする「心の教育」の充実

- ・道徳教育の推進
- ・ICT を効果的に活用した道徳科の授業の質的向上
- ・「考え、議論する道徳」の道徳授業の実践

いじめ未然防止に向けて

- ・児童の発するサインを見逃さない
- ・心と体のアンケートの実施
- ・SNS 等の急速な発展・普及に対応した取組
- ・特別支援教育の充実と推進を図る

- ・交流及び共同学習の充実

- ・校内支援体制の充実と保護者や関係機関との連携深める。

○げんきの花「たくましく（体）」

感染症対策を踏まえた指導

- ・効果的な換気や手洗い・手指消毒の実施、マスクの着脱について適切な指示を行い、熱中症等にも安全面に最大限配慮する。

あいさつの推奨

- ・進んで明るくあいさつできる子の育成
- ・小中連携あいさつ運動の実施

体力の向上の推進

- ・新体力テストの全学年・全種目での実施
- ・子どもが楽しみながら資質・能力を身に付ける体育科の授業の充実

- ・ICT を効果的に活用した授業の実践

- ・体育専科指導教員の活用

安全・安心な学校づくり

- ・安全教育の推進
- ・養護教諭と担任が連携した健康教育や食育の推進・アレルギー給食対応の確実な実施

環境美化の充実

- ・もくもく掃除をする子の育成

長期欠席（不登校）への対応

- ・ICT を活用し、学びの場を確保する。
- ・SC や SSW 等と連携を密にし、解決を図る。

スクールプランの実現

スクールプランの実現

◎自律した学びの実現・・・教育活動全体を通して、教師による「子ども一人一人への温かな関わり」（子ども理解と教材理解による価値付けや称賛・期待・信頼・励まし・受容・承認・共感等）の中で高めていくことで、子ども自身が目標を設定し、見通しをもって取り組み、その過程を振り返って意味づけることで実現。

◎学校における ICT の効果的な活用の推進・・・子どもの ICT 活用能力を段階的に向上させながら、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。

「学校における業務改善プログラム」の着実な推進

- 子どもと向き合う時間を確保やワーク・ライフ・バランスの充実

- 教職員一人一人が当事者意識をもち、ボトムアップで業務改善を推進することができる組織体制の構築を図る。

家庭・地域との連携

- ・ICT の効果的な活用を図る中で、より一層、情報モラル教育を推進する。（家庭・地域と連携した情報モラルの育成）
- ・家庭学習習慣の定着・・・自主学習の取組
- ・北九州市型学校運営協議会の中で地域・家庭・学校で熟議を充実させる。・・・（例）地域防災訓練（1月12日）
- ・地域や企業等の人材と積極的に連携・協働する。
- ・情報の積極的な発信（学校・学年・学級だより、授業参観・懇談、HP 等）